

国外実態調査報告書

テーマ : 協会組織 (Verein, Verbund etc) の研究
ゼミ名 : 新井 裕 ゼミ
調査日 : 2024 年 9 月 4 日 (水) ~ 2024 年 9 月 12 日 (木)
調査先 : 【オーストリア】
授業科目名 : GPP
参加学生数 : 1 名 (2 年生)、2 名 (2 年生)、3 名 (4 年生)

調査の趣旨 (目的)

オーストリアにおける Verein や Verbund 等の組織を訪問し、その成り立ち、経過、実態を聞き取り調査する。

調査結果

Momijikai-Verein, Eisenbahnen-Verein Sportverein, Musikalischer Verein などの協会組織を訪問し、それぞれの Verein の代表者に日本で用意したたくさんの質問事項を投げかけた。個々の組織の目的、会員の層、対象としている領域はまちまちであったが、これらの組織に共通しているのは、全てがウィーン市の公的援助を受け、行政的にはその下部組織として運営されているということであった。つまり監査を含め、厳密な会計報告が義務付けられている。さらなる共通点は、これはすべての代表者とのインタビューで異口同音に確認できたことであるが、「未来のために、子どもたちのために運営する」という姿勢である。サッカークラブが学校生徒や若いプレイヤーのために特別なチームを作ること、トラムの管理をしている代表が、子どもたちの目線でトラムの歴史を視覚化していること、金銭的な余裕のない若いミュージシャンを支え、彼らに演奏の機会を与えている演奏会場のリーダー。弓道というあまり馴染みのないスポーツを通して異文化に触れること、的を射るのではなく、的の前に立つことによって意識過多に陥っている体を修正し、人間の持っている本来の姿を呼びさまそうと試み。柔軟で、どのような事態も受け入れることのできるようなしなやかな若者たちを養成していこうとするこれらの組織の姿勢を幾度となく、さまざまな領域で確認することができた。Verein をこれまでは余暇活動の一環として捉えてきたが、そこには未来を見据えた、確実な戦略が存在していた。